

店舗床材にエステックウッド

山康商店が納入



革かばんなど皮革製品を製造・販売するヘルツ（東

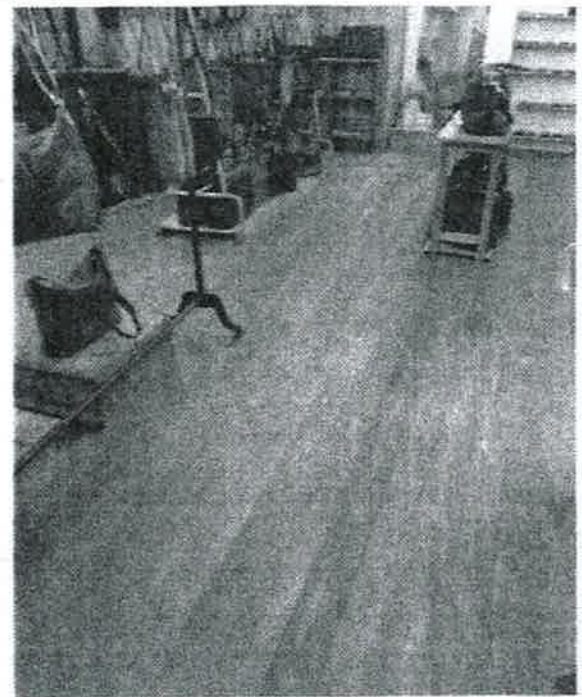
京都、野口裕

明社長）の直

営店として11

月に開店したオルガン表参道店の内装床材、外部デッキ材に、エステックウッド加工された杉材が納入された。（東京都、山崎尚社長）。

表参道の高級バッグ専門店に採用された



エステックウッドは耐圧熱容器に木材を入れ、容器内を窒素置換し、圧力を制御しながら180〜220度で加熱した製品。薬剤を使用しないため安全性が高く、防腐・防虫性、耐久性、寸法安定性、耐水性が向上す

る。またヤニやアクが発生しない特徴も兼ね備える。江間忠木材が製造・販売している。オルガンに採用されたエステックウッドは、内装床材向けが杉1820ミリ長12ミリ厚120ミリ幅、外装デッキ向けが2000ミリ長30ミリ厚105ミリ幅。ヘルツのオーナーが、あめ色に変化した杉の色合いを含めて気に入り、採用となった。

エステックウッドは耐久性、耐摩耗性に優れていることから、12ミリ厚でも十分に土足歩行に対応できる。山崎社長は「杉1等材を用いることができ、今回は原板を12ミリ厚に割り返したことで加工コストが抑制できた」と語る。引き続き、店舗内装等に提案していく考えだ。オルガンでは内装壁面にも米ツガKD2×4材をそのまま施工しており、ラフな木材の質感を引き出している。